

開発計画

下北沢が「シモキタ」でなくなる？

小田急線地下化で26m道路とロータリー計画に住民ら「異議あり」

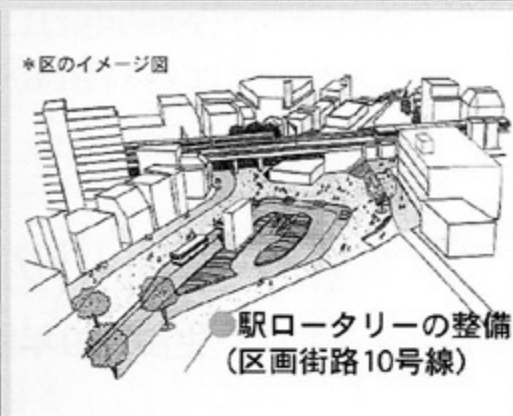
小劇場やライブハウスが集積し、若者文化をリードしてきた東京都世田谷区下北沢。「シモキタ」の愛称で知られ、戦災を免れた路地が網の目のように入り組んでいる。これまで小田急線の高架化をめぐる住民との協議が紛糾してきたが、2003年1月、地下化が決定。しかしこの連続立体交差事業にともない、60年も前の1946年に都市計画決定された補助54号線と、駅前ロータリー広場建設が浮上。このままでは駅周辺の商店街が分断され、シモキタらしさがなくなると、住民らは反発を強めている。

小田急線梅ヶ丘駅、代々木上原間の地下化が決定したのは2001年4月。高架、地下を問わず連続立体交差事業では、2本以上の幹線道路が交差する必要があった。そこで区道を拡幅して幹線道路と見なそうという計画になったが、2004年にこの条件は撤廃された。

法的には下北沢の商業地と住宅地を横切る26m道路を整備する必要がなくなったことになる。ところが、世田谷区は、この環状7号線並みの道路を前提として同年11月、「下北沢駅周辺地区計画骨子案」を発表。これによれば道路を拡幅、下北沢駅前にはロータリー広場を設け、それに接する建築物は最高60mまで高層化が可能になる。

区は、「下北沢街づくり懇談会」で地権者らとは協議済みであり、防災上、緊急車両の通行からも駅前開発は必要とし、小田急線地下化にあわせ、2013年の完成をめざしている。

一方、この計画に対し、演劇、音楽の聖地下北沢が下北沢でなくなると、2003年12月、地元住民らが「Save the 下北沢」(共同代表：下平憲治・金子賢三)を結成。また、2004年12月には、小林正美・明治大学教授を代表に「下北沢フォーラム」が発足



左上 | 下北沢南口駅前 左上・下 | 歩行者優先のまちなみ(下北沢フォーラム実行委員会資料より) 右上 | 1月18日には下北沢開発反対のパレードが行われた 右中・下 | 世田谷区による下北沢駅前開発計画(下北沢フォーラム実行委員会資料より)

した。

さらに今年1月18日には下北沢の事業者400名以上による「54号線の見直しを求める下北沢事業者協議会」(大木雄高代表)が組織され、道路計画と地区計画見直しを求める要望書を

区長に提出した。

区では3月議会で何らかの事業推進をはかろうとしているもよう。下北沢らしさを守れるのか、今大きなヤマ場を迎えようとしている。